

【牛久市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、牛久市では目指す学びの姿を「未来を自分らしく生き、自分や社会に起こる課題の解決ができる資質・能力の育成」とする。具体的には、教師も児童生徒も1人1台端末を「文房具」として日常的に活用し、多様な学び且つ主体的・対話的で深い学びができることを目指す。特に、各教科の授業における思考・判断・表現の場面に1人1台端末等ICTを効果的に活用し、児童生徒の課題解決の思考力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

牛久市では、1人1台端末の整備と共に、校内の高速通信ネットワークを整備し、大型提示装置を各教室に配置するなどICT環境の整備に努めてきた。1人1台端末導入当初は、教職員のサポートとしてGIGAスクールサポーターを学校に派遣し、簡易運用マニュアル作成、コンテンツ活用支援、ICT機器を活用した授業の機器操作補助やトラブル対応等の支援をおこなった。また、ICT支援員による各学校を巡回しながらの助言や支援により、授業での活用も徐々に進んできており、児童生徒同士で意見交換を行い、問題解決に取り組むといったことも行われている。

新型コロナウイルス感染症の拡大による一斉休校時には、学校に登校できない状況下でも児童生徒の学びを止めないためのオンライン授業も実施ししている。

一方で、教職員のICTを活用した指導する能力については、教職員の意識・スキルといった面で学校内又は学校間での格差も見られる。

端末の活用が進むにつれトラフィックの増加により、ネットワークが遅い、固まるといった授業に支障が出る場合や、端末の破損による修理が増え、修理中の代替えとして当初想定していた数の予備機での対応が難しく端末不足が生じる事態となった。

このような課題も浮き彫りとなったことから、今後、より一層1人1台端末の利活用を進めていくには予備機を含めた端末、通信ネットワークや周辺環境等の整備に加え、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

- 環境を整備する

- ・ ネットワークアセスメントの結果を踏まえたネットワーク改善、端末次期更新時

における十分な予備機を確保する。

- 端末を日常的に利活用する

- ・ 1人1台端末を活用し、文章だけでなく、スライド・動画・プログラミングなど多様な表現方法により、児童生徒が自分の考えを整理し、発表・表現するなど主体的・対話的で深い学びを目指す。
- ・ 1人1台端末を活用し、対面でのやりとりに加え、ICTツールを活用した学習支援・相談・フィードバックなど、教職員と児童生徒のコミュニケーションがリアルタイムかつ多様な形での円滑なやりとりを実現する。
- ・ AIドリルを活用することで、間違えた問題の復習や、得意な問題には発展的な問題が提示されるなど、児童生徒の理解度に応じた問題が自動的に出題されることにより、児童生徒個別の習熟度に応じた学習が可能となる。

- 学びを保障する

- ・ インフルエンザなどの感染症流行時や、災害時にも学びを止めないリモート授業や、不登校児童生徒が自宅から授業に参加できるよう、オンライン配信を活用し、授業を録画し好きな時間に学習できる環境などを整備する。また、AIドリルを活用し、個別最適な学習を提供し、クラウド上で課題の提出やフィードバック、教育相談等が行える仕組みを整える。
- ・ 外国人児童生徒や障害のある児童生徒が、言語の壁や身体・認知の特性に関わらず、翻訳機能や障害を補助する様々なICTツールを活用し、全ての児童生徒が学びやすい環境を整備する。

- 活用を支援する

- ・ 教職員向けのICT研修を設け、受講率100%を目指しスキルの向上に努める。
- ・ 市内全小中義務教育学校にICT支援員を週1回配置し、授業支援等を通して1人1台端末を始めとするICT環境によって目指す姿を実現する。また、ヘルプデスクも設置し、配置日以外の環境整備や支援体制を整える。
- ・ 1人1台端末を活用した授業実践好事例について、クラウドツールを活用し共有できる体制を整える。